富士市
富士山火山防災マップ

令和３年３月に新たな富士山ハザードマップが公表されました。このことを受け、市は富士山の噴火に備えて、皆さんが自ら命を守るために、いつ、どこに、どのような行動をすればよいのか、事前に考えていただくために作成しました。マップを確認し、いざという時のために備えましょう。

防災マップに関する問い合わせ先

富士市役所 危機管理室防災危機管理課

TEL：0545-55-2715　FAX：0545-51-2040

Eメール：bousai@div.city.fuji.shizuoka.jp

令和６年３月作成

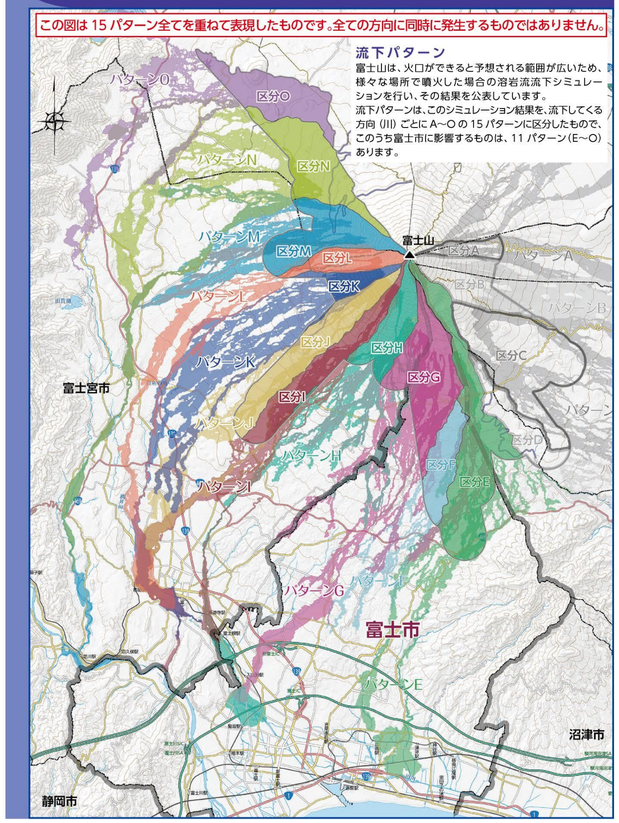
富士市に関わる溶岩流の流下パターン

この図は 15 パターン全てを重ねて表現したものです。全ての方向に同時に発生するものではありません。

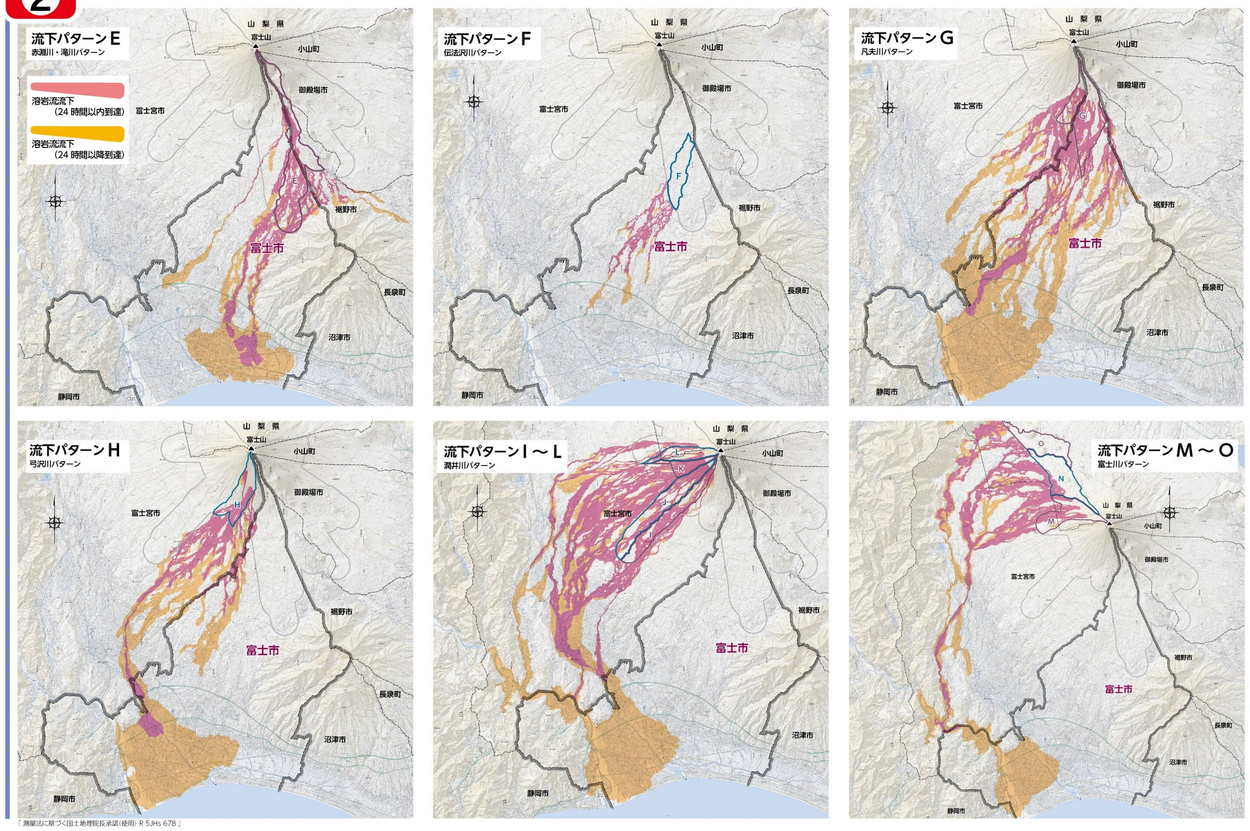
流下パターン

富士山は、火口ができると予想される範囲が広いため、様々な場所で噴火した場合の溶岩流流下シミュレーションを行い、その結果を公表しています。

流下パターンは、このシミュレーション結果を、流下してくる方向（Ⅲ）ごとにＡ～Ｏの 15 パターンに区分したもので、このうち富士市に影響するものは、11 パターン（E～O）あります。



Map 2　富士市に影響する流下パターンはパターンＥ～Ｏです。流下パターンによって、溶岩流の流れる方向が変わってきます。



「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）Ｒ５JHs 678」

必ず確認！

避難行動を確認しましょう

噴火の影響範囲を Map 1 Map 2 Map 3 表 1 表 2 表 3 で 確認しましょう

わが家は・・　　町内会（区）

Step 1　溶岩流について確認する

1. Map 1 表 1 表 2 を見て、避難対象エリアをチェックしましょう

☐ 第１次 避難対象エリア　☐ 第２次 避難対象エリア　☐ 第３次 避難対象エリア

噴火 後 避難 → 表 1（記入欄）へ

☐ 第４次 避難対象エリア　☐ 第５次 避難対象エリア　☐ 第６次 避難対象エリア　☐ 避難対象エリア外

噴火 後 避難 → 溶岩流からの避難の必要はありませんが、想定外の被害に備え、情報収集に努めましょう。

2. Map 2 を見て、溶岩流が到達する流下パターンをチェックしましょう

☐ 流下パターン E　☐ 流下パターン F　☐ 流下パターン G　☐ 流下パターン H　☐ 流下パターン I～L　☐ 流下パターン M～O

市内の避難所または市外の避難所への広域避難

▶流下パターンごとに発令される避難指示にしたがって避難してください。

Step 2 へ

Step 2　融雪型火山泥流について確認する

1. Map 3 表 3 を見て、積雪期の避難対象エリアをチェックしましょう

☐ 事前避難対象区域内　☐ 避難対象エリア　☐ 避難対象エリア外

積雪期のみ 噴火 後 避難 → 融雪型火山泥流からの避難の必要はありませんが、想定外の被害に備え、情報収集に努めましょう。

噴火 後 避難 → 避難先：

建物内での垂直避難が近くの堅牢な建物を避難先として決めておきましょう。

2. 表 3 を見て、避難先を記入しましょう　避難先：

3. 避難先までの経路の確認、また所要時間を確認しましょう

徒歩：　分

車　：　分

→ 避難先

噴火前の自主避難について

噴火警戒レベル１の時に「火山の状況に関する解説情報（臨時）」が発表された場合、自主避難の呼びかけを行います。

自主的に安全な場所にある親戚や知人宅へ避難することも一つの手段ですので、普段から避難先を検討しておきましょう。

富士山噴火で想定される現象

噴 石（大きな噴石、小さな噴石）

噴火時に火口から放出される直径2mm 以上の岩石の総称。

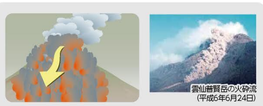
このうち概ね直径 20 ～30cm 以上の、風の影響をほとんど受けず弾道を描いて飛散するものを「大きな噴石」といい、火口から数 km 先まで飛散することがあります。また、それ以外の「小さな噴石」は、風に流され火口から 10km 程度の場所に降下して被害をもたらすことがあり、注意が必要です。

浅間山の噴石（平成17年8月4日）

火砕流（火砕サージ）

火砕流は 高温の火山灰や岩石、空気や水蒸気が一体となって高速で山体を流下する現象です。また、火砕サージは火山灰まじりの爆風で、火砕流の先端部から分離して生じる場合があります。

どちらも流下速度は時速数十 km から百数十 km、温度は数百度に達し、発生後に流下コースから避難することは不可能なため、影響が及ぶ範囲では事前の避難が必要です。



雲仙普賢岳の火砕流（平成6年6月24日）

溶岩流

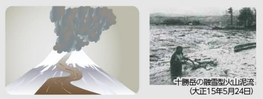
火口から噴出したマグマが、高温の液体のまま重力によって地表を流下する現象で、進路にある森林、田畑、建物等は埋没、焼失します。

生命への危険性は高いものの、流下速度は比較的遅く、基本的に徒歩での避難が可能ですが、地形や溶岩の温度・組成などによっては早く流下する場合があるため注意が必要です。

伊豆大島噴火の溶岩流（昭和61年11月19日）

融雪型火山泥流

積雪がある時期（積雪期）に山腹に積もった雪が火砕流等の熱で一気に融けて水となり、火砕物や斜面の土砂を巻き込みながら高速（時速 60km を超えることもある）で流下する現象で、影響が及ぶ範囲では事前の避難が必要な場合があります。



十勝岳の融雪型火山泥流（大正15年5月24日）

降 灰

噴火時に火口から放出される直径２mm 未満の比較的細かい噴出物を火山灰といい、降灰は火山灰が地表に降下する現象をいいます。

降灰そのものを原因として、直ちに生命に危険が及ぶことはないため、現象の影響範囲から立ち退く必要性は低いものの、火山灰を吸い込むと呼吸器系の疾患にかかりやすくなるなどの健康被害のおそれがあるため注意が必要です。

また、降灰の規模や継続時間は、気象条件によって大きく変化するため、予測は困難です。

三宅島の降灰（平成12年7月16日）

降灰後土石流

降灰や火砕流で流下した火山灰などが山の斜面に堆積した後に起きる土石流のことで、少量の降雨でも発生し、広い範囲に被害を及ぼすおそれがあります。

降灰後だけでなく、降灰中や噴火の終息後も長期間にわたって発生することがあるため、噴火後に雨が予想されているときは、川の近くや谷の出口に近づかないようにする必要があります。

土石流の被害を受けた家屋

降灰からの避難

▼降灰があったら…

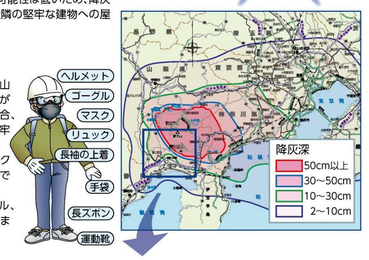
●降灰そのものにより命に危険が及ぶ可能性は低いため、降灰が見られた場合、原則として自宅や近隣の堅牢な建物への屋内退避をお願いします。

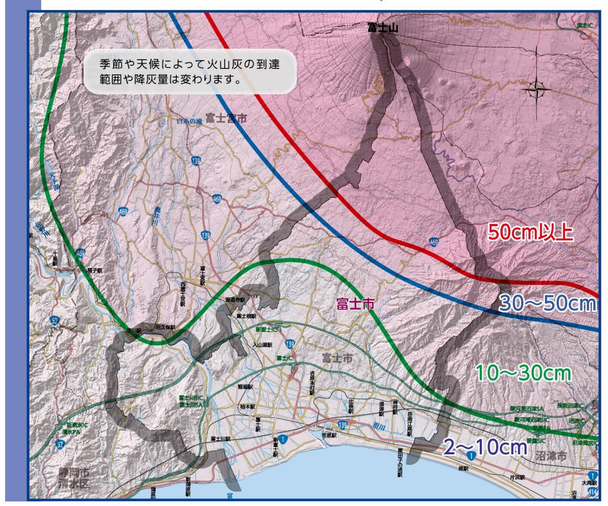
▼避難するときは・・・

●木造家屋では、屋根に30cm以上火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。この場合、近隣の鉄筋コンクリート造などの堅牢な建物に退避する必要があります。

●降灰により視界が遮られたり、スタックしたりするおそれがあるため、自動車での避難は危険です。

●避難するときはヘルメット、ゴーグル、マスクを着用し、身の安全を確保しましょう。





情報の入手先　噴火発生の危険性が高まっている時、また噴火発生時には、正しい情報を入手しましょう。

防災情報及び避難情報の入手

気象庁・消防庁 → 報道機関 テレビ・ラジオ / Ｊアラート・プッシュ型通知サービス → 住民

富士市

- 同報無線放送・防災ラジオ
- 富士市 Web サイト　富士市の防災情報一覧
- 防災ふじ（富士市防災アプリ）　▲Androidはこちら　▲iPhoneはこちら
- 富士市公式 LINE

同報無線情報や発令中の避難情報や富士市の停電・気象情報、河川の水位情報、ハザードマップなどの情報を入手できます。

- 富士市メールサービス（富士市情報配信サービス）　［日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語］

富士市の防災情報（気象庁）

気象庁が提供する発表中の防災情報、雨雲の動き、天気予報、アメダス、地震情報などが閲覧できます。

静岡県の公式防災アプリ　Android はこちら　iPhone はこちら

家族に安否を知らせるために・・・

災害用伝言ダイヤル（171）

災害が発生し、被災地への通話がつながりにくい状況になった場合に提供が開始されます。

詳しくは「NTT 西日本災害用伝言ダイヤル（171）」を確認しましょう。（モバイル用）

伝言の録音方法　171 → 1　音声ガイダンスに従ってください。　(0545)■■-■■■■　被災地の方は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。　伝言を入れる（30 秒以内）

伝言の再生方法　171 → 2　音声ガイダンスに従ってください。　(0545)■■-■■■■　被災地の方は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。　伝言を聞く

災害用伝言板（web171）

災害伝言板（web171）

インターネットを利用した安否確認の伝言板です。パソコンやスマートフォン、携帯電話等で利用できます。

利用方法　web171 へアクセス　https://www.web171.jp　被災地の人の電話番号を市外局番から入力　伝言を登録・確認